

冬来たりなば 春遠からじ

新年、あけまして おめでとうございます

13日間の冬休みが終わりました。生徒の皆さんが再び元気な姿で3学期を迎えることができたことを大変うれしく思います。

いよいよ令和2年(2020年)、56年ぶりに日本でオリンピック・パラリンピックが開催される年がスタートしました。

皆さんは新年を迎え、気持ちも新たに希望や目標を抱いていると思います。3学期は最も短い学期であるとともに、一年間の総決算の学期となります。一日一日を大切に過ごしてほしいものです。

特に3年生にとっては義務教育の最終学期であり、受検というこれまで身に付けてきた力を最大限に発揮しないといけない時がやってきます。「受検は団体戦」とも言われます。これまで共に学んできた仲間が互いに教え合い、補い合いながら、学年・学級の力を結集して臨むことで、結果として個人の目標とする進路を実現していくことにつながるという意味です。健康管理に十分気を付けながら、悔いを残さぬようベストを尽くして下さい。

1・2年生にとっての3学期は、今の学年の締めくくりと、「進級」するための自覚を持ち、今年度の総仕上げをするととても重要な学期です。この学期を「0学期」という人もいます。例えば2年生にとっての3学期は、3年生の「0学期」、今日からすでに次の学年が始まっているというわけです。それだけ「進級に対する自覚をもって過ごしましょう。」ということです。

「冬来たりなば、春遠からじ。」という言葉があります。

知っている人も多いことでしょう。イギリスの詩人シェリーの詩がその出典のようです。「西風に寄せる歌」という詩の最後に「if Winter comes, can Spring be far behind ?」とあるのがそのようです。

一年の中で最も寒い日が続くのが3学期です。しかし、厳しい寒さの中でも、「冬が来たならば、次は明るく暖かい希望の春が確実に近づいている」ということです。また、「つらい時を耐え抜けば、幸せな時が必ず来る。」という意味で用いられたりもします。自分への甘さは捨てて、目標達成のための努力を継続すれば、必ず希望の春がやってきます。

1・2学期に学んできたことや経験してきたことを蓄えとして、そのうえで、卒業や進級に向けて目標を持ち、その実現のために一日一日を大切に、精一杯の努力をする3学期にしてくれることを願っています。